

# 豆狸の寝言

副会長 三原幸二

今、大阪ミナミの宗右衛門町界隈が大きく変わろうとしています。この街は道頓堀川の開削後、道頓堀の五座を中心とした芝居街や櫓街の発展と共に、道頓堀川の北岸で南地花街として、多くの料亭をはじめ飲料店を中心に発展し、独特の食文化、酒文化を四百年以上にわたり育み続けてきました。

しかしながら、皆さんもよくご存知のようにバブル経済の崩壊後は不況の波が街にも押し寄せ、老舗店の撤退、倒産等により空室となった跡地に風俗案内所や性風俗店が急増し、この街は大きく変貌してしまいました。このような現状の中でこの街の心ある商店主の方々は平成七年に宗右衛門町商店会を設立、地域の活性化、環境の浄化に取り組み、平成十六年には「宗右衛門町活性化協議会」が設立され、行政、警察の協力指導を受けながら様々な課題解決に取り組んでこられました。

また、平成十九年には「食と酒、川のある街、宗右衛門町」を『まちづくり宣言』として策定し、その実現に向けて現在も多岐にわたる『まちづくり事業』を積極的に推進しておられます。そして、とうとう平成二十一年に悲願であった「大規模な街並整備」が着工され、宗右衛門町通りからすべての電柱や電線類がなくなり、道路には『石畳の道』が復活し、アーケード



や街路灯も新設され、新たに美しい街並が誕生するということになるそうです。

宗右衛門町の人々だけでなく私たち部外者にとっても馴染み親しんだミナミが明るい街に生まれ変わることは、安全、安心の面からも大変好ましく嬉しいことです。美しい石畳の道を散策し、美味しい料理を心行くまで堪能できる日が待ち遠しく、一日も早い完成を願っています。

先日、とある会合で伺った話をちょっとご披露させていただきます。

(大阪ミナミが生まれ変わる) 2009年執筆